

事務事業マネジメントシート (21年度実績と22年度計画)

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 25 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		勤労青少年ホーム運営事業				<input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局	課長名 高木敏明
	施策	20	生涯学習の推進			所属課	生涯学習課	担当者名 衛藤剛
	基本事業	68	学習やスポーツへの参加機会の提供			所属班	生涯学習班	(内線) 2432
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	成果優先度評価結果 : 8 コスト削減優先度評価結果 : 6
		1	10	5	9	10789		
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 21年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始		事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S63 年度) 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	・勤労青少年ホーム(御代志市民センター内)の企画運営に関する事業 ・運営委員会の実施
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	昭和62年4月に御代志市民センター内に勤労青少年ホームが開館し、若者向けの講座やサークル活動が始まった。類似民間施設増加によるニーズの減少や、若者の趣味の多様化により、参加者が減少している。また、厚生労働省も勤労青少年福祉対策としては「余暇活動促進」よりもニート・フリーター対策に代表される「就労、自立支援」へ重きを置いてきている。
【業務の流れ】	講座企画、講師依頼、参加者募集、申し込み受付、講座開催
【主な予算費目】	報酬、報償費(講師謝礼)、旅費(費用弁償)、需用費(消耗品費)、役務費
【意見や要望】	対象者から講座の種類を増やして欲しいという要望がある。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部 (DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 半環(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
① 定期講座開催(バドミントン毎週1回、料理月2回×4ヶ月×2期、クラブ講座全6回、ネイルアート講座全6回)	① 定期講座開催(バドミントン毎週1回、料理月2回×4ヶ月×2期、手芸講座6回×2期)
② 短期講座開催(クリスマスケーキ作り講座1回、羊毛フェルト小物づくり講座1回、バレンタインスイーツ講座1回、メディカルアロマ講座1回)	② 短期講座開催 全6回
③ 勤労青少年ホーム運営委員会開催、10月	
④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標	(単位)
⇒ ア 講座開設数	イ 講座開催数
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
市民(18歳以上30歳以下の勤労青少年)	⇒ ア 18歳以上30歳以下人口
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑥ 成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
若者同士で交流を深め、知識や教養を高めてもらう。	⇒ ア 参加者数
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠	
出来るだけ多くの勤労青少年が講座に参加することで様々な人との交流ができるようになるので、成果指標を上記のとおりとした。	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	19年度実績(決算)	20年度実績(決算)	21年度目標(当初予算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	23年度予定	24年度見込
④ 活動指標	ア 講座		5	4	4	6	4	4	
	イ 回		100	72	83	83	80	80	
⑤ 対象指標	ア 人		7000	7000	7000	7000	7000	7000	
	イ								
⑥ 成果指標	ア 人		130	75	100	76	100	100	
	イ								
投資入量	事業内訳	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		繰入金	千円						
		一般財源	千円	461	349	350	349	350	350
	(A) 事業費計	千円	461	349	350	349	350	350	0
	(A)のうち指定経費	千円							
	(A)のうち時間外、特勤	千円							
人件費	正規職員従事人数	人	4	3	3	3	3	3	
	延べ業務時間	時間	300	120	110	245	110	110	
	(B)人件費計	千円	1,191	480	438	975	438	438	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,652	829	788	1,324	788	788	0

総トータルコスト	全体計画
～	年度
(期間限定複数年度のみ記載)	
	0
	0
	0
	0

事務事業名	勤労青少年ホーム運営事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 ↷
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 ↷
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ↷
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 ↷
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 ↷
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 ↷

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

全ての講座において一定以上の参加申込があり、講座を開講することができた。
 これまでは各戸回覧、ホームページ、友の会登録者へのDM送付、合志市企業等連絡協議会加盟団体へのDM送付を行って募集をしていたが、今後は市内各施設にポスターを張るなど、より一層周知に努める必要がある。
 また、平成21年度より友の会費を活用し講座内での交流事業を行うようにしたことで、講座内での交流が深まっている。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持					低下		
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持																					
	低下																					
(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ①講師にふさわしい人材の発掘 ②市民(勤労青少年)への周知を徹底する手段の検討 ③参加者同士の交流促進のための事業検討																						